

文字の組み立て方を理解して、
文字の形を整えて書こう（四年）

甲府市立新紺屋小学校 中込 繁樹

1 実践の趣旨

子どもたちは、これまでに「点画の接し方・交わり方」、「画間」について学習してきた。国語科の学習では、一学期に『漢字の組み立て』という教材で、漢字の偏や旁などの構成（かんむり、あし、によ、たれ、かまえの名称やその意味）について学習した。

二つ以上の部分に分けられる文字は、学習漢字全体の八割以上を占めている。これらの複合文字は、部分の位置関係から「左と右」「上と下」「内と外」の三つに大別できる。そのうち「左と右」（偏と旁）から成る文字は、学習漢字の中の四五〇以上もあり、「上と下」（かんむりとあし等）からなる文字は三五〇以上を数える。つまり、小学校で学習する漢字の多くは、「左右」「上下」の部分から成る複合文字であると言える。

児童の書き文字の実態を調査したところ、左右から成る漢字

では、偏の右側が縦にそろっていないため旁とぶつかっていたり、ぶつからないようにするために偏と旁との間が必要以上に開いていたり、字形が整わない一因となっていた。また、単独文字が偏になるとその横画が右上がりになるが、ほとんどの児童ができていなかった。上下から成る漢字では、多くの児童が組み立て方に気をつけて書いていたが、上下の文字の中心をそろえることがやや達成できていなかった。

文字の形を整えて書くためには、複合文字の部分と部分の点画を、どのように譲り合い構成するかが大切な要素となる。このことを、児童には「文字の組み立て方」という言葉で理解させる。本教材では、学習漢字の多くを占める「左右」「上下」から成る文字に視点を当て、文字の形を整えて書くために、「文字の組み立て方」をどのようにすればよいかを、特に「単独漢字が部分になったときの形の変化」に視点を当て、児童とともに考える中で学習を進めた。また、国語教材『漢字の組み立て』で学んだ知識も活用し、書写の観点からさらに学びを深めていった。

学習を進めるに当たっては、児童自ら課題を発見し、主体的に思考し活動する展開を試みた。文字がどのような原理・原則で成り立っているのか（本単元では、**組み立て方**）を意識して、日常の書写活動に取り組みするための手立てとして、書写カードによるめあてや学習の基準の把握、課題を調べるためのワークシートの活用、視覚的に課題や各自の成果を捉えるための作業化や提示物の工夫等を行った。また、グループで課題を発見させたり、児童が相互に評価し合ったりするなど、多様な学習形態をとって主体的な活動を促した。

2 指導計画（全3時間）

- 【目標】 ◎「左右」「上下」の文字の組み立て方を理解する
◎「左右」「上下」の文字の組み立て方に気をつけて、漢字を書く。
○単独文字が複合文字になるときの形の変化に気づき、その違いを考える。

	学習内容と児童の活動	教師の支援
第1次	「知る」ために書く（本時） 1. 本時のめあてを知る。 左右の文字の組み立て方を調べよう ・漢字足し算「左右」をする。 2. 課題文字から原理・原則を調べる。（硬筆・フェルトペン） 3. 発表して、学習の基準を確かめる。 4. 学習のまとめをする。	・「漢字足し算」に取り組ませ、学習への意欲を喚起する。 ・課題文字を提示して、文字の組み立て方に気づくようにする。 ・漢字プリント（ヒントカード）を配り、調べるときの手立ての一つとする。 ・ワークシートに調べたことをまとめさせる。
第2次	「解決する」ために書く 1. 本時のめあてを知る。 上下の文字の組み立て方を調べよう ・漢字足し算「上下」をする。 2. グループで話し合い、課題文字から原理・原則を見つめる。（毛筆） 3. 発表して、学習の基準を確かめる。 4. 学習のまとめをする。	・前時の学習を想起させ、グループの話し合いによって、上下の組み立て方の原理・原則を導き出す。 ・6グループ。辞書等を活用する。 ・用紙は画用紙を多めに準備し、必要なだけ自由に使用させる。
第3次	「応用する」ために書く 1. 本時のめあてを知る。 文字の組み立て方に気をつけて、漢字を書こう 2. 前時までの学習を生かして、左右・上下から成る漢字を書く。（毛筆） 3. 各自、まとめた文字を提示しながら、気づいたことなどを発表する。 4. 前時までの学習を生かして、左右・上下から成る漢字を書く。（硬筆・書写ノートを活用） 5. 単元のまとめと学習の感想を書写カードに書く。	・一人一人テーマをもたせる。 ・辞書や教科書、漢字プリント（ヒントカード）を活用して調べさせ、多くの漢字を書けるようにする。 ・まとめはパネルシート形式にして掲示し、児童が付箋にアドバイスを書いて自由に貼れるようにする。 ・アドバイスは文字の巧拙ではなく、文字の組み立て方の学習をどれだけがんばれたかに視点を置いて書くようにさせる。

〈評価規準〉

	おおむね満足できる状況	努力を要する児童への手立て
関心意欲態度	○漢字が、ほかの漢字の部分になるときの形の変化について、興味をもつことができる。	○具体的な事象を紹介しながら、複合文字になることによって生じる、形の変化の必然性を説明する。
知識理解	○左右、上下で成り立つ文字の組み立て方の原理・原則を理解している。	○個別指導を行い、具体的にどのようにすればよいか支援する。
技能	○文字の組み立て方に気をつけて書いている。	○用紙に補助線を入れたり、手を取って一緒に書いたり、正しい文字（部分）をなぞり書きさせたりする。

文字の組み立て方の勉強をしてパネルシートにまとめて自分で書いた今日の字はすこく上手にできました。：(中略)：ほかの勉強をしているときも、こども文字の組み立てになっているなど思えるといいです。友だちの発表も聞いてよかったです。この勉強ができてよかったです。

文字の組み立て方の勉強をしてふだんたくさん字を書いているけど気づかない細かいところまで知ることができてとてもよかったです。：(中略)：自分では気づかない所も友だちの発表を聞いてよりよく知ることができました。班ごとに字を書いたり国語の教科書で字を調べたりするのはとても楽しかったです。

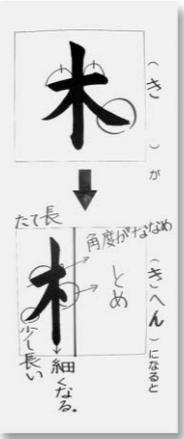
文字の組み立てで分かったことがいっぱいあってよかったです。自分の文字のちよつとしたまちがえやみんながみつけたことに「そうなんだあ」がいっぱいありました。これからもっともっといっぱい見つけていきたいです。

ぼくは、最初へんとかになると、ちよつとはらいが変わるくらいだと思っていたけど、この三時間の授業を通して、へんやかんむりになると元の字よりこんなに変わるということが分かりました。また、そのちがいに気をつけると、うまい字が書けました。それに友だちの発表も聞き、それも気をつけると、とてもうまく書けました。楽しかったです。

4 書写カードから——学習全体を通しての児童の感想

3 本時の展開 (第1次)

- 【目標】 ○一つの漢字がほかの漢字の部分になるときの形の変化に気づく。
○文字の組み立て方に気をつけて書く。

	学習活動と教師の支援・発問	学習の様子
とらえる	1. 学習のめあてを知る。 ・書写カードにめあてを書かせる。 2. 文字の組み立て方に興味をもつ。 ・「漢字足し算」をする。 (林・坂・姉・特・粉など)	 <p>子どもたちが「木偏」で気づいたことは五つあった。 ・縦長(長方形)になる。 ・右払いが止め(点)になる。 ・横画が斜め(右上がり)になる。 ・横に縮められて縦画が細くなる。 ・左払いが少し長くなる。</p>
確かめる	3. 課題を調べる。 ・「林」の文字を見て気づいたことを話し合う。 ○「はやしは 木木 正しいかな？」 ・「木」と「木偏」の違いを考える。 (単独文字より幅を狭く ・右払いは、点に ・縦画と横画が交わる位置)	
広げる	4. ほかの文字を調べる。 ・「土」「女」「牛」など、各自の課題で調べる。 ・漢字プリント(ヒントカード)を配り、単独文字が偏になったときの変化を調べる手立てとする。 ・漢字辞典を活用する。 ・ワークシートに調べたことを書き込む。 5. 調べた文字について発表する。 ・OHC(実物投影機)を使い、拡大して投影する。	 <p>▲ 児童が調べたワークシート</p>
まとめる	6. 学習のまとめをする。 ・2回目の「漢字足し算」を書き、1回目の文字と比較させる。 ・書写カードに、わかったことや感想を書かせる。	  <p>▼ 漢字プリントや漢字辞典を使って調べたことを、OHCを活用して発表した。</p>

5 成果と課題

今回は、「文字の組み立て方の原理・原則を理解する」ことに重点を置いて実践した。第1次(本時)では、「単独文字が偏になると縦長(長方形)になる」という形の変化に視点を当てたが、児童は、それだけではなく、点画の変化や画の交わる位置などについても自ら発見し、課題としてもつことができた。また、児童の感想から、文字の組み立て方に興味をもち、日常の書き文字にも生かしていこうとする姿勢が見られた。

授業では、児童の興味・関心を引き出すため、「漢字プリント(ヒントカード)」で多くの字例を挙げたが、もっと字例を精選し、焦点化してもよかった。

授業での児童の興味・関心をいかに持続させるか、また身につけた「文字の組み立て方」についての知識・技能を、日常の書写活動にいかにか生かしていくのか、今後継続的に取り組んでいくべき課題と言えるだろう。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

子どもたちは、不思議発見、謎解きが大好きで、これらの不思議・謎に対して、興味を抱くだけでなく、「なぜ?」「どうして?」と問いかけるものです。問いかけに対して教師が直ちに解答を用意する必要はなく、「考えてみよう」と促すことが大切です。本授業では、興味・関心を引き出し、思考を促し、児童一人一人が解答や課題解決を行っています。「生きる力」「人間力」を高めるために、書写の授業に思考活動を取り入れることを大いに進めていかなければなりません。その意味で、本授業はその方向性を示していると言えます。(M)